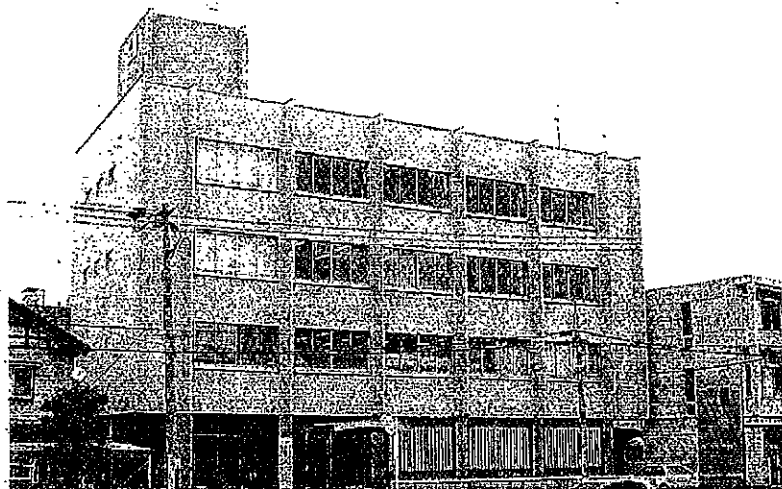


生え抜き役員が中心となって自主再生準備を進めた真柄建設。31日、金沢市藤三町で



# 真柄建設が自主再生

## 奥村社長退任、後任に小野氏

真柄建設(金沢市)が全株式を取得し、自主再生を目指すことになった。野征男常務が就いた。同日の臨時取締役会では、奥村社長一ガン・インベストメントが退任し、新社長に小野征男が就いた。同日の臨時取締役会では、奥村社長一ガン・インベストメントが退任し、新社長に小野征男が就いた。

同社は2008年7月に民事再生を申請し、昨年9月にドーガンのファンドが1億円を出資。野村総合研究所(東京)の指導を受けて経営再生を進めてきた。債権者への弁済は昨年1月に終えている。

# 真柄建設生え抜きで再生

## ファンド保有 小野常務が社長に

民事再生手続き中の常務(奥)が社長に昇格。北國銀行出身の奥村一社長(奥)は退任する。小野氏は一九六九年四月に真柄建設入社。名古屋支店長や常務執行役員東京本店長、監査役二人の五人と判断した。

同日付で、小野征男が社長に就任した。

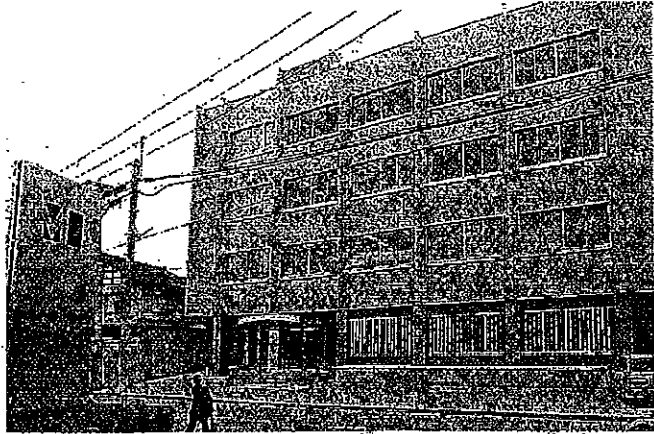
# 真柄建設 生え抜きで再建

## 今期の黒字化を目指す

### 新社長に小野常務

民事再生手続き中の中堅ゼネコン、真柄建設（金沢市）は、スポンサーに頼らず、生え抜きの経営陣で自主再建に向かう。三十一日付で北國銀行出身の奥村弘一社長（64）が退任し、後任に小野征男常務（58）が昇格。北陸と大都市を基盤に、黒字回復を目指す。

（本島康弘）



生え抜きの経営陣による自主再建に乗り出した真柄建設＝金沢市彦三町で

柄の役員や社員が一億三千万円は黒字化を目指す。新経営陣による経営計画見直しも検討しており、さらに人員削減する可能性もある。

新社長の小野氏は、北國銀行出身の奥村弘一社長が退任し、後任に小野征男常務が昇格。北陸と大都市を基盤に、黒字回復を目指す。

宮崎俊英氏と庄司務氏が取締役兼常務執行役員に就任し、小野社長を含む世で取締役を三人体制にした。北國銀行やトリーガンから迎えていた役員はすべて退き、生え抜きだけの経営陣とした。

同社は民事再生の申請時に五百四十万円の従業員を二百四十名まで減らすなど、経営を絞りこむ。今後は市場規模の大きい東京や大阪など大都市圏ではインフラ整備など土木分野で、地元北陸では建築と改装で受注拡大を図る。二〇一〇年三ヶ月は百数十億円の受注があったが、最終赤字になる見通し。一一年

平成22年4月1日(木)読売新聞

## 真柄建設 自主再建へ

### 経営陣と従業員 1億円で全株式取得

民事再生手続き中の真柄建設（金沢市）は31日、スポンサーの「トリーガン・インベストメント」（福岡市）が保有していた真柄建設の全株式を、同社の生え抜き経営陣と従業員が1億円で取得したと発表。奥村弘一社長は退任し、新社長に小野征男常務（64）が就任した。今後、メインバンクの北國銀行の支援を受けつつ、自主再建を進める。

同社は昨年9月、再生計画に基づき、事業再生ファンドを運営する「トリーガン・インベストメント」から暫定的に1億円の出資を受けて再建を進めていた。

その後、後継スポンサーを探したが、条件が折り合わずに断念。だが、2010年3月期の目標売上高約100億円が達成できそうな見通しが立ち、北國銀行の支援があれば自主再建が可能と判断した。トリーガン社から迎えていた社外取締役は退任した。

今後、重点市場の北陸地

社、名古屋支店長を常務執行役員東京本店長などを歴任し、昨年9月から常務取締役兼常務執行役員建設本部長を務めてきた。

北陸有数の建設会社だった同社は〇八年七月、三百四十八億円の負債を抱えて民事再生法の適用を申請した。

#### 「動向見守る」

北國銀行

北國銀行は三十一日、真柄建設について「メイン銀行として役割を担う動向を見守り、再生のために継続的な」としている。

支援を行い、地元経済に与える影響を最小限にとどめるために最善を尽くしてきた」とコメント。今後は「自主再建の動向を見守り、状況に応じた取引を再開する」としている。

域と、大都市圏を中心に事業を展開し、経営の効率化を図る。同社は「債権者の皆様には迷惑をおかけした。地に足を付けた仕事で、いち早く再建を果たしたい」と話している。

真柄建設

# MBOを発表

## 小野常務が社長就任

民事再生手続き中の真柄建設(金沢市)は31日、経営陣による買収(MBO)で自主再建を図る方針を正式発表した。同社生え抜きの小野征男常務が同日付で社長に昇格し、メインバンクである北國銀行出身の奥村弘一社長は退任した。民事再生計画に基づいて投資ファンドが保有していた同社の全株式を小野氏ら役員が取得。スポンサーを付けずに再生手続きの終結を目指す。

たほか、生え抜きの宮崎俊英取締役、庄司務取締役が留任した。北國銀行出身の奥村社長と中島啓祐常務は退任した。

小野氏は30日付で企業再生ファンド、ドーガン・インベストメンツ(福岡市)が保有していた同社株式を1億円取得し

ており、同社の民事再生は、名実ともにメインバンク主導から生え抜き経営陣による自主再建に切り替わる。

真柄建設は2007年12月に大阪支店で工事費用の不正な会計処理による利益水増しが明るみに出た。当時、常務執行役員で東京本店長だった小野氏は、08年3月に渦中の大阪支店長に就き、業務改善を指揮した人物で、社内の人望も厚いという。同社が民事再生手続きに入ってから常務執行役員にとどまり、ドーガンが1億円を出資した昨年9月に常務取締役

に昇格していた。

北國銀行は31日、真柄建設のMBOについて「役員による自主再建の動向を見守っていく」とのコメントを出した。

# 役員ら全株取得し再建

## 真柄建設、新社長に小野氏

民事再生で経営再建を進めていた真柄建設(金沢市)は31日、役員と従業員がスポンサー企業から全株式を買い取り、自主再建を目指すことを発表した。同日の臨時取締役会で、奥村弘一社長(68)が退任し、新社長に小野征男常務(64)が就いた。

同社によると、同日の朝礼で小野氏が「みんなの代表のつもりで社長を引き受けた。自主再建の道で一緒に頑張ろう」と述べた。夕方には現場社員向けに事情説明会を開いた。同社の全株式は、再生支援先だったドーガン・インベストメンツ(福岡市)のファンドが所有していた。奥村氏と同じ北國銀行出身の中島啓祐常務、ドーガンの社外取締役の3人は退任した。新経営陣は真柄建設の生え抜きで構成する。メインの北國銀行は「今後の動向を見守っていく」とした。

真柄建設は2008年7月に民事再生を申請し、昨年9月にドーガンのファンドが1億円を出資。野村総合研

究所(東京)の指導を受けて経営再建を進めてきた。債権者への弁済は昨年11月に終わっている。

10年3月期の売上高について同社は「予想の100億円をほぼ達成できる見通し」としており、新経営陣で11年3月期以降の新しい事業計画を策定する。

小野氏を除く新経営陣は次の各氏。

▽取締役兼常務執行役員 宮崎俊英 庄司務▽常務取締役 長尾博▽社外監査役 田明佳